

**学校法人富澤学園
山形短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

山形短期大学の概要

設置者	学校法人 富澤学園
理事長名	内田 鋈一
学長名	内田 英子
A L O	伊藤 弘昭
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	山形県山形市大字片谷地字谷地515番地

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
総合文化学科		120
子ども学科		180
人間福祉学科		80
	合計	380

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

山形短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成20年3月19日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成18年7月12日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

学校法人富澤学園創立者の建学の精神「敬・愛・信」を受け継ぎ、理事長・学長を中心として教育理念との一体感を感じさせる短期大学である。その精神は、当該学園の教育目的・教育目標のバックボーンとなっている。学生に対しては、入学前および入学後、各学期ごとのオリエンテーションや諸行事において反復的に教示されるほか、学則などにも明記され、教職員とともに共有されている。

教育の内容においては、授業内容、教育方法、評価方法などはシラバスに明記されており、各学科とも主要教科については、建学の精神などに精通している専任教員が担当している。演習、実習などを含め、免許・資格取得科目の多いことなどを踏まえ、カリキュラム上の工夫や配慮がなされており、学生のニーズに応えている。教育環境は、全般的に整備されているが、将来的には他の図書館との相互利用面での開発が望まれる。教員の研究活動も活発に行われている。

子ども学科で採択された特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）「実習を核とした総合的カリキュラムの構築」や山形大学を中心とした地域共同で採択された現代的な教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）「地域ネットワーク FD “樹氷”」への参加など、当該短期大学全体の教育活動の質の向上に結びついていると評価される。

学生支援においても、留学生別科の学生の受け入れや、同窓会からの学生への奨学金の給付をはじめ同窓会との絆の深さなど優れた試みと評価したい。

地域交流センター・民話研究センターを開設して、地域社会との活発な交流活動を展開し、学生によるボランティア活動など地域社会への貢献を支援・促進しており、地域の人々からも厚い信頼が寄せられている。

平成17年度において、これまでの国文科と英文科を統合し、総合文化学科を設置したことにより、定員割れが解消され、3学科ともに入学定員を充足し続けており、学園運営の安定が図られている。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動など）への取組みが活発である。平成 16 年度には県内大学・短期大学で組織されている「地域ネットワーク FD “樹氷”」の当番校として第一回目が実施され、平成 17 年度までは FD 推進委員会が担当し、平成 18 年度には「教育開発研究センター」が設立され、FD に関する業務をすべてとり行うことになっている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教育環境が整備されている上に、専任教員の数が多いところから、きめの細かい教育ができています。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 平成 16 年度、子ども学科の特色 GP 採択以降、他学科においても質の高い丁寧な教育活動が今日まで発展的に展開されている。また、その結果、地域共同の現代 GP への参加により FD への教員の意識が向上し、学園独自の「ティーチング・ティップス」などの取組みを創出している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 留学生別科での教育成果を備えた学生の一部がそのまま、当該短期大学に入学するという留学生の学習・生活支援の体制ができています。
- 同窓会からの学生生活支援の一つである奨学金について、毎年 5 人に給付されている。
- 卒業式で行われる学生表彰制度については、個々の学生の学生生活に励みを与えるものとなっている。

評価領域Ⅵ 研究

- 紀要を含む学術刊行物を 3 誌年 1 回発刊しており、教員による研究の成果を発表する機会が十分に確保されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域交流センター・民話交流センターを開設し、地域社会との活発な交流活動を展開している。
- 学生によるボランティア活動が盛んで、短期大学としても学生の活動を熱心に支援・促進しており、地域社会に幅広く貢献している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 短期大学運営の主要な 10 の委員会が頻繁に開催され、教職員の意見が取り上げられ審議されている。

- 教員の研修・研究の機会も十分に確保され、職員の研修スタッフ・ディベロップメント（SD）活動も活発に行われており、参加も積極的で、職員として備えるべきものを会得している。

（２）向上・充実のための課題

評価領域Ⅴ 学生支援

- クラブ、サークル活動はあまり盛んとはいえず、これら活動への支援による振興は、個々の学生の学生生活充実に結び付くものと考え、今後に期待したい。

（３）早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神「敬・愛・信」は学校法人富澤学園の創設者によって確立され、教育理念と一体化されている。また、この「敬・愛・信」は体育館の扁額に掲げられ、教職員の名刺にも印字されているほか、学生に対しては学則などに明記されており、かつ行事の学長式辞などにおいても言及するなど、教育目的・教育目標のバックボーンとなっている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程は全体としてバランスのとれたものになっている。総合文化学科は選択科目が96%となっており、選択の幅が大きいいため、時間割上の様々な工夫が行われている。子ども学科と人間福祉学科は資格取得に必要な科目が多く専門教育中心になっており、その結果教養科目の取得単位数は少なくなっている。

各学科とも、免許・資格取得可能な授業科目が開講され、講義のほか、演習、実習など卒業に必要な62単位以上を取得させ、免許・資格を得ている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

全体として教員組織が整備されている。その上、教育環境が整っており、それらが活用されている。図書館も教育・学習資源の中心として活動をしている。学外への情報発信や、他の図書館との相互利用活動の促進が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成のために、3学科ともに「敬・愛・信」の建学の精神を重視し、きめ細かな教育活動を展開している。

平成16年度に特色GPに採択された、子ども学科の「実習を核とした総合的カリキュラムの構築」は教育目標達成を目指す象徴的な取組みであり、学園全体の教育活動の質の向上に結びついている。

また、授業の質を高めるための努力や工夫もいくつかの点においてみられ、山形大学を中心として地域共同で採択された現代GPの取組み「地域ネットワークFD“樹氷”」への参加は、当該短期大学独自のFDに結びつき、「ティーチング・ティップス」の取組みに結実している。

卒業後学生の評価については、卒業生へのアンケートに留まらず、学生が就職した幼稚園、保育園、施設、さらには一般企業の人事担当者などにもアンケートを実施するなど多面的に取組まれており、さらに、同窓会との関係において充分になされている。

評価領域V 学生支援

入学学生の学習支援体制は整備されており、入学前教育についても学科ごとの工夫によって取組みが進められている。

入学後の個々の学生の学習活動、学生生活、就職や進学活動については、担任、学科、支援事務部局によってしっかりと支援が行われている。

健康診断の高い受診率、カウンセラーによる学生生活支援、同窓会から学生への奨学金の提供など、学生支援は多方面から行われており、充実している。

評価領域VI 研究

著書・論文をはじめ、学会発表など教員の研究活動は活発に展開されている。個々の教員の研究活動の状況についてはウェブサイト上で確認することが可能となっていて、「雑誌・論文等」「図書等」「その他」の項目に分けて詳細に公開している。なかでも紀要を含めた学術刊行物を毎年3誌発行していて、研究成果を発表する機会を十分に用意していることは大いに評価される。科学研究費補助金については、文部科学省からのものを含めて毎年4~5件が採択されており、順調に実績を上げているとあってよい。

教員あるいは教員グループによる担当授業科目に関する研究は、学科間で多少の差がみられるものの、とくに子ども学科を中心にプロジェクトを組むなどして学生指導に効果を発揮している。

評価領域VII 社会的活動

地域交流センター・民話研究センターを開設し、公開講座や種々の講習会を開催するなどして、山形県生涯学習センターをはじめとした周辺地域の行政機関や地域住民

との活発な交流を続けている。今後もさらに活動の幅を広げることを企図し検討を重ねていて、当該短期大学の社会的活動は極めて熱心である。

学生の地域活動や地域貢献、ボランティア活動は「高齢者への訪問」「観光案内所での英語による通訳活動」「施設訪問」など多岐にわたって活発に行われ、活動の実態を広報誌で一般に公開し、顕著な活動については表彰の対象にするなど、積極的に支援・促進する姿勢を打ち出している。

留学生の受け入れに関しては、平成 11 年に留学生別科を開設して日本語教育を中心に入学前の予備教育を行うなどの支援をしている。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の管理体制については、理事会が確立し理事長のリーダーシップが発揮されている。短期大学の運営体制は確立しており、全体的なものは学長のリーダーシップの下に運営されている。

教授会をはじめ事務組織、人事管理などの管理運営体制は確立されており、適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人により毎年度の予算・事業計画が策定されており、予算執行も所定の役職者の決済を経て適切に行われている。

決算終了後の計算書類、財産目録、貸借対照表は適正に作成され、監事による監査も適宜実施し、公認会計士による監査の立会いのもとで、年 3 回実施され特に指摘を受けたことはない。

月次帳票類も適正に作成し、報告されており、これらのことから財務運営が適切に行われていると断定される。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価活動の実施体制は整っており、現状認識にとどまっている。その成果の活用および相互評価への取組みが望まれる。